

## 令和7年度 市長とセットトーク意見交換要旨

開催日：令和8年2月3日（火曜日）10時30分～11時30分

開催場所：社会福祉法人にじいろスクエア・せとうち 児童発達支援センターひよこ  
にじいろホール

団体・グループ名：障害児・者を育てる親 有志の会

テーマ：教育（子育てヘルプサービス導入の提案、不登校の障害児支援）

### ★意見交換要旨★

・瀬戸内市のファミリーサポートセンター（以下、「ファミサポ」）事業に、不登校児や障害児、多子を育てる母親、または母親が体調不良の場合など、子育ての助けが必要な母親の負担軽減を目的とした子育てヘルプサービス（以下、「子育てヘルプ」）の導入を提案する。

（提案内容）

・瀬戸内市のファミサポは障害児支援に消極的な印象がある。市は一時預かり保育や療育施設、相談窓口などの支援は充実しているが、「家庭に訪問するサービス」がない。母親が助けを必要とするのは家庭内で起きていること。家庭内での手伝いを行うサービスが必要と考える。

・子育てヘルプには、家事の手伝い、子どもの見守り、買い物や遊び場への同行、母親の診察中の子どもの世話、離乳食のサポートなどを含む。

・瀬戸内市のファミサポは依頼希望者が多い一方で提供会員の不足が課題のため、提供会員を増やす取り組みが必要。社会福祉協議会（以下、「社協」）と連携した提供会員養成講座の実施や広報活動の強化が必要だと思う。

・子育てヘルプによって、子育て支援者が増えて母親に余裕が生まれ、少子化対策につながる可能性がある。さらに、地域の子育てを終えた人へ広報活動を広げることで支援者増により高齢者の生き甲斐を生むことや、保護者に余裕が生まれ、きょうだい児にも時間をかけられることが期待できる。

・障害児はファミサポの預け先でパニックになる可能性がある。子育てヘルプなら、サポートしてくれる人が家に来て、母親が同席した状態で支援を受けられるため、子どもの負担が減り、支援者の安心にもつながると考える。

・ファミサポを利用しやすい仕組みが整っている三豊市や岡山市、倉敷市の子育て支援を参考に、瀬戸内市でも必要とされる子育て支援の実施を望む。

・保護者の負担軽減や精神面のフォローは障害児だけでなく健常児の母親にも重要だと思う。保護者が安心して子育てできるよう、地域で支え合いながら、瀬戸内市の子育て支援のさらなる充実を望む。

（こども家庭課）

市のファミサポは提供会員が集まりにくい状況である。三豊市は社協に委託されている

が、瀬戸内市は直営で保育園の中で保育士が運営しており、体制に少し違いがある。保育園運営をしながらファミサポ事業に携わっており、保育士が不足している中で対応している。

社協によるファミサポの運営は、委託経験がないため詳しく分からないが、本市のファミサポは、全体の管理運営をする職員が1人おり、数名の会計年度任用職員が補助を行っている。

事業所は1か所（邑久保育園内）で提供会員は実働で8人であり、出張サービスなどサポート体制はあるが、人手不足により実施できていないのが現状。市の広報紙等での積極的な周知は行っていききたいが、提供会員の不足によりサービスが提供できない可能性があるため、まずは提供会員募集の広報を行っていききたい。

・ファミサポの周知によって「サポートしたい」という人がいても、提供会員は複数回にわたり養成講座を受講しなければならない。講座を受講することもハードルが高いため、講座を市内で開催したり会場に託児を用意したりすることで、子連れでも抵抗なく受けられる。三豊市は「MitoPay100ポイント付与」など参加者のメリットもある。また、瀬戸内市のような子育て券でファミサポを利用することもできる。

（市長）

子育て支援に対する働きかけとしては、現在、生活協同組合で市の「すくすくチャイルドチケット」を使えるようできないか交渉をしているところ。チケットの用途の範囲をどこまで広げられるか検討できることがあるかもしれない。いただいたご意見を念頭に置いて引き続き検討を進めていきたい。

・瀬戸内市にはフリースクールがない。市の「のぞみ教室」は支援級（特別支援学級）に在籍していると利用できないため、不登校の障害児は行き場がない。特性のある子どもの家庭学習は困難で、どのように育てていけばいいか分からない。周囲に相談できる人がおらず、福祉施設の相談員も十分な知識を持っていない場合があるため、母親の精神的負担が大きい。障害児を受け入れる場所の拡充と専門知識を持つ職員の配置を求める。

（総務学務課）

現在、支援級在籍の児童生徒がのぞみ教室を利用できるかについては検討している。のぞみ教室は不登校支援を主に行っており、障害児の特性に合った支援は提供されず、不登校支援に特化した対応となっている。

・支援級に通う子どもも不登校になる可能性があることを認識してほしい。教育委員会が1～3年生の子どもの特性を見て学級を判断しているが、その判断された場所に通うことができなかつた場合にどうしたらいいのか。受け入れてくれる場所がないと、親が自宅で見ることができないので、仕事にも影響が出る。

・また、県の支援学校は、知能指数（IQ）などの条件が厳しいため、許可が下りにくく、利

用が難しい。不登校の障害児にも教育を施したいため、早急に教育体制を整え、市の支援学校の質を向上してほしい。

(総務学務課)

のぞみ教室は元々不登校支援のために設けられたものであり、特別支援は専門的かつ個別対応が必要なため、登校支援から特別支援に幅を広げられず、特別支援が必要で不登校になった子どもへの対応が課題となっている。この課題を認識しているため、現在、のぞみ教室で特別支援を提供できるかを模索している。のぞみ教室と小・中学校のどちらが適切か協議しながら、不登校の障害児の受け入れ態勢を整えていきたい。のぞみ教室の利用を検討される場合は、提供可能な支援内容を確認しながら対応することになる。

・ファミサポについて、提供会員になるには講座の受講が必要だが、瀬戸内市主導での講座の提供は難しいと聞く。岡山市では、発達障害児のための講座があり、それを提供会員希望者に受講してもらうことで障害児を預けやすい提供会員が増える可能性がある。岡山市と連携して、瀬戸内市民も受講させてもらえるよう検討してもらえるか。

(こども家庭課)

現状、講座受講希望者には県の講座に行ってもらえることが多い。岡山市との連帯については、検討したい。

・潜在保育士や元教員に声を掛けて提供会員になってもらっている市があるようだが、そういった情報を市が持っていたら、瀬戸内市も同様の方法で提供会員を増やすことは可能か。預ける側も安心して利用できると思う。

(こども家庭課)

瀬戸内市の職員として保育士をしていた人で退職した人については、いくらかの情報があるものの、市外で勤務していた人については情報がないため、声掛けが難しい。

・別の組織になると思うが、シルバー人材センターと連携して、センター会員の人に講座を受けてもらい、提供会員の声掛けを行うのはどうか。センター会員の中には希望する人いるかもしれないので効率的だと考える。

(市長)

シルバー人材センターの就労時間とファミサポの就労時間などの条件次第では可能性があるかもしれないが、シルバー人材センター自体もセンターの会員募集をしている状況と把握している。

・市が社協と連携してファミサポの講座を開くことは、場所が近く参加しやすくなるため効果的と考える。まず提供会員を増やすために、社協などとの連携や情報共有していただき、講座の開催を検討してほしい。

(市長)

いただいたご意見を踏まえ、子育て施策の充実に努めたい。瀬戸内市は子育て世代に選ばれているまちであるため、次年度は、保育料無償化、出産祝い金の倍増、学校外教育バウチャーなど様々な子育て・教育施策を行おうとしている。すくすくチャイルドサポート事業においても、サービスの利便性向上、提供体制を整えていきたい。